

# 2020年度研究分科会行事と研究内容について

(※行事は一部変更になる可能性があります)

研究部会長：小薬 次郎

| 分科会名／主査                                  | 行事と研究内容   |
|--|---|
| ゴムの力学研究分科会<br>琉球大学<br>藤川 正毅              | <p><b>【講習会】</b> 8月28日(金) 於 名古屋<br/>ゴムの力学入門コース2020「ゴム材料・製品のためのFEM解析」<br/>受講料(税込) ゴム協会員 24,200円 学生会員5,500円<br/>会員外 33,000円</p> <p><b>【研究内容】</b><br/>ゴム材料やゴム製品の力学挙動に関し、解析、実験、シミュレーション(CAE)という異なる視点からの情報や、企業、大学、ソフトベンダーという異なる立場からの情報を交換し議論する場を提供することで、ゴムの力学研究の発展と応用展開に貢献する。</p> |
| ゴム練り研究分科会<br>久留米高等工業専門学校<br>名誉教授<br>藤 道治 | <p><b>【シンポジウム】</b> 10月9日(金) 於 東京<br/>11月6日(金) 於 大坂<br/>受講料(税別) ゴム協会員 24,200円 学生会員5,500円<br/>会員外 33,000円</p> <p><b>【研究内容】</b><br/>ゴム練りにはゴム製品に対応した様々な練り方があり、多用されているインターナルミキサーの練り挙動が複雑である事など多種多様な技術課題がある。年4回の分科会を通じてこの様な課題を少しずつ調査検討して明らかにし、実際に役立つゴム練り技術を見出してゆく事を旨とする。</p>      |
| 金型研究分科会<br>関西ゴム技術研修所<br>山口 幸一            | <p><b>【シンポジウム】</b> 12月予定<br/>受講料(税別) ゴム協会員 24,200円 学生会員5,500円<br/>会員外 33,000円</p> <p><b>【研究内容】</b><br/>金型加硫成形では、成形物の形状、特性は金型の良し悪しに左右され、金型設計は重要あり、金型内での流動性挙動などの解明、その他金型に関する技術課題について、技術情報の収集、交換の技術講演、見学会を通じて行い、課題の解決を図る。また、シンポジウムを開催し、技術普及啓蒙、金型技術の継承、伝承を目指す。</p>              |
| トライボロジー研究分科会<br>金沢大学<br>岩井 智昭            | <p><b>【シンポジウム】</b> 2021年1月予定</p> <p><b>【研究内容】</b><br/>ゴム材料の摩擦・摩耗・潤滑に関して、材料設計、実験やシミュレーションなど幅広い視点から捉えるとともに、地球環境保全のための高効率化、省資源化、リサイクル化などを考慮したゴム・エラストマーのトライボロジー設計に対する基礎的から先進的研究を討論し探求する。</p>  |
| 環境劣化研究分科会<br>デンカ(株)<br>藤井 信彦             | <p><b>【シンポジウム】</b> 2021年2月予定</p> <p><b>【研究内容】</b><br/>年4回の分科会では、ゴム原料及びゴム製品の様々な環境下での老化・疲労・寿命・劣化の検出・推定方法、対策立案など、劣化に関するさまざまな視点から専門家による勉強会を開催している。分科会終了後は、自由参加により懇親会を実施し、更に深い情報交換とメンバー相互の親睦を図っている。また、毎年1回技術シンポジウムを開催し、劣化の基礎から応用まで最新の話題を提供している。</p>                              |
| 配合技術研究分科会<br>横浜ゴム(株)<br>鹿久保 隆志           | <p><b>【シンポジウム】</b> 2021年3月予定</p> <p><b>【研究内容】</b><br/>企業、大学、公的機関から基本的な配合手法や新原材料・新技術等を紹介することで相互に勉強し、参加者各自のレベルアップ、さらには業界全体のレベルアップを目指した活動を行い、ゴム産業の発展に貢献する。</p>   |

|  |  |
|--|--|
| <p>衛生問題研究分科会</p> <p>長岡技術科学大学<br/>河原 成元</p>               | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>ゴム製品（含 原料ゴム）、ゴム用薬品、プラスチック関連物質の生体安全性及び規制等に関する自主的調査研究や大学、公的機関と連携して先端情報の収集活動、および天然ゴム、天然ゴムの分解、ラテックス用ポンプ等について情報収集を行う。</p>  |
| <p>分析研究分科会</p> <p>協和界面科学(株)<br/>星埜 由典</p>                | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>材料の分析・解析を専門とする研究者の集まりであり、分科会を4回/年、シンポジウムを1回/年開催して、切磋琢磨している。分科会活動 ①分科会員による日頃の成果の技術講演 ②ゴム技術シンポジウムでの技術的質問事項への回答に基づくQ&amp;A集の作成。</p>  |
| <p>成形加工技術研究分科会</p> <p>(一財)化学物質評価研究機構<br/>近藤 寛朗</p>       | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>成形加工分科会の現在の対象は以下となる。①配合、混合、押出、圧延、加硫という各工程を通して相互間を論じる、②未加硫ゴムの物性と流動の探索、③加工性改善策→材料面、機械面、④加工機に関する最近の知見及びその応用。</p>   |
| <p>接着研究分科会</p> <p>岩手大学<br/>平原 英俊</p>                     | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>ゴム接着技術は、ゴム工業における極めて重要な生産加工技術の一つである。直接接着技術および接着剤を適用する間接接着技術の双方を基礎的、理論的観点から討議し、実際に役立つ技術開発を目指している。</p>   |
| <p>新世代エラストマー技術<br/>研究分科会</p> <p>東京工業高等専門学校<br/>山本 祥正</p> | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>天然ゴム、グアユールゴム、新規合成ゴムおよびゴム関連材料の構造や物性に影響を与える様々な要因を細部にわたって探求し、ゴム製品の分子レベルにおける真の姿をあらわにすることを目的としている。目的を達成するため、若手メンバー間でゴム材料の構造解析や物性評価法を検討し、それらの情報共有、ネットワーク構築、コア討議、成果報告およびゴム関連メーカーでの新規材料技術習得を行う。</p>                         |
| <p>エラストマーの補強研究分科会</p> <p>信州大学<br/>野口 徹</p>               | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>エラストマーの補強を“材料”、“補強構造・補強メカニズム”、“補強効果”の3つの要素として捉え、互いの関係を様々な“測定・解析法”によって探ると共に、3者の統合を目指す。</p>   |
| <p>水素機器用エラストマー材料<br/>研究分科会</p> <p>九州大学<br/>西村 伸</p>      | <p>【シンポジウム】 未定</p> <p>【研究内容】<br/>ゴム・エラストマー材料の材料強度や化学構造に対する高圧水素の影響評価、材料と水素の相互作用の解明に関する議論に基づいて、ゴム・エラストマー材料の水素特性に関するデータベース構築を進める。水素機器に使用される水素ガスシール用ゴム・エラストマー材料の素材開発、シール部材開発、シール部材ユーザーという異なる視点や立場からの情報交換、議論の場を提供し、水素ガスシール用エラストマー材料の研究開発の発展と応用展開を目指す。</p> |

ご興味やご関心のある分科会がございましたらぜひともご参加のうえ、今後のお仕事・ご研究にお役立てください。なお、研究活動費として正会員等の会費と別に1万円程度の年会費が必要となります。また、日本ゴム協会の会員であることがご入会の条件となります。迷われている方、一度ご相談ください。

お問合せ先 研究部会担当：TEL 03-3401-2957 FAX 03-3401-4143 E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp